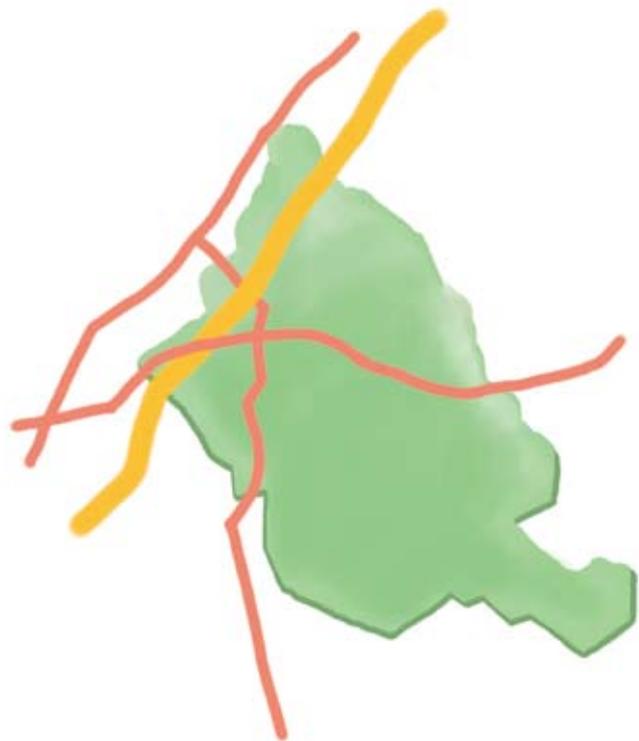




第2章

計画の背景

第1節	市民の意識	14
第2節	時代の潮流	20
第3節	本市の地域特性	21
第4節	人口・就業状況	22



計画の背景

計画の策定にあたり、踏まえるべき背景として、市民の意識、時代の潮流、本市の地域特性、人口・就業状況を整理します。

第1節 市民の意識

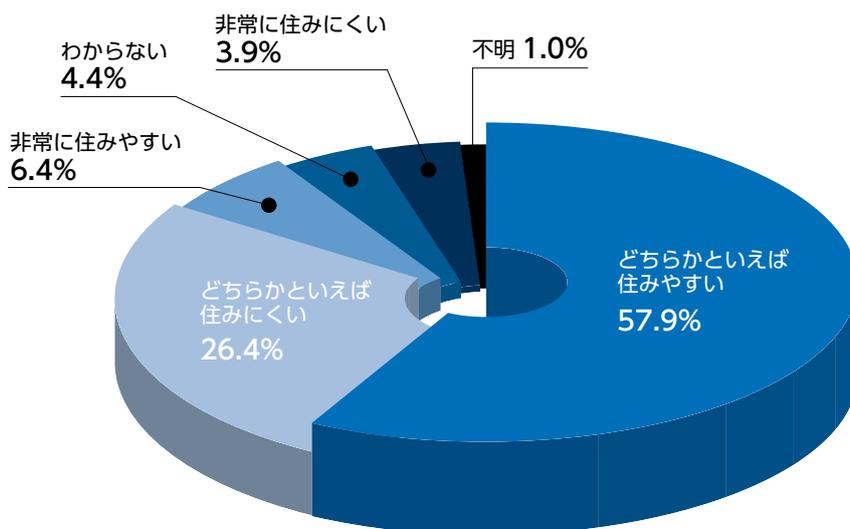
本計画の策定にあたり、市民の意見を把握するため、市民(5,000人を無作為抽出)を対象に実施した市民意識調査結果からみた、今後のまちづくりの前提となる市民の意識は以下のとおりです。

(1) 富里市の住みやすさと市民サービスに対する満足度と期待度について

■富里市の住みやすさ

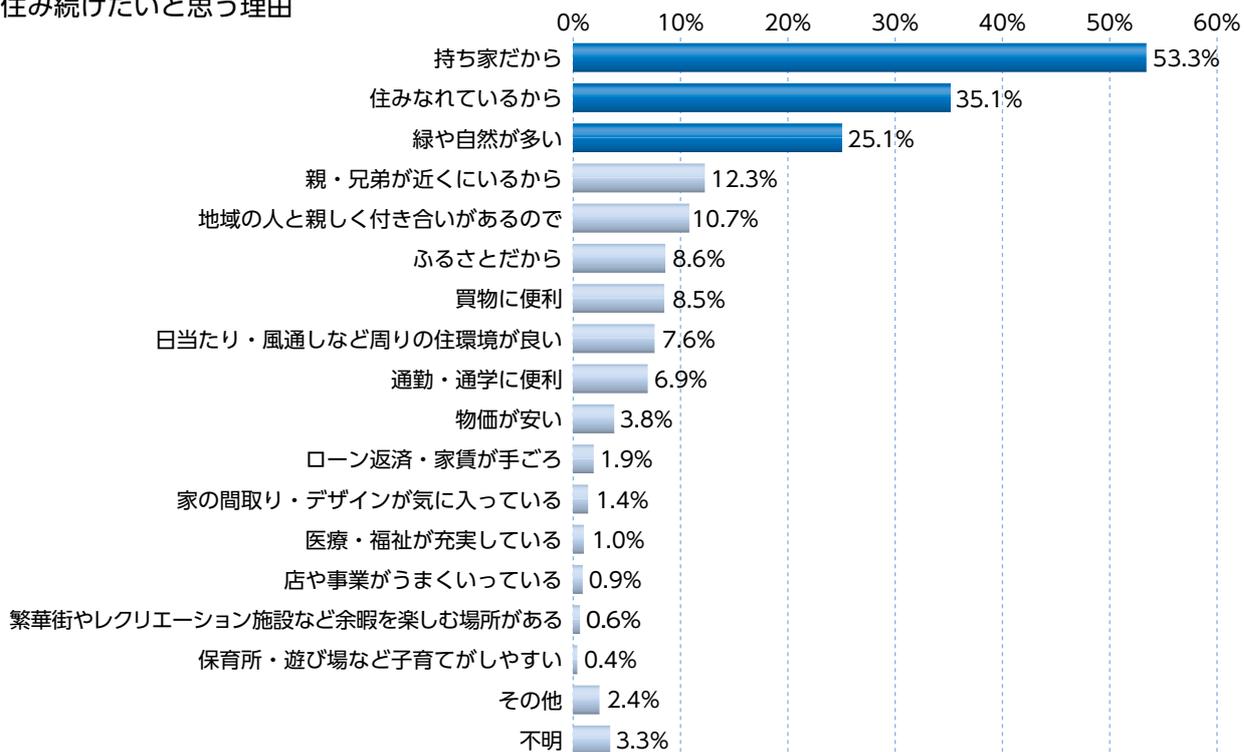
本市を住みやすいと感じている人が半数を超えますが、住みにくいと感じている人も多く、今後は、多くの方々が住みやすいと感じられるように、市民ニーズに対応した各種サービスの充実が求められています。

●住みやすさについて



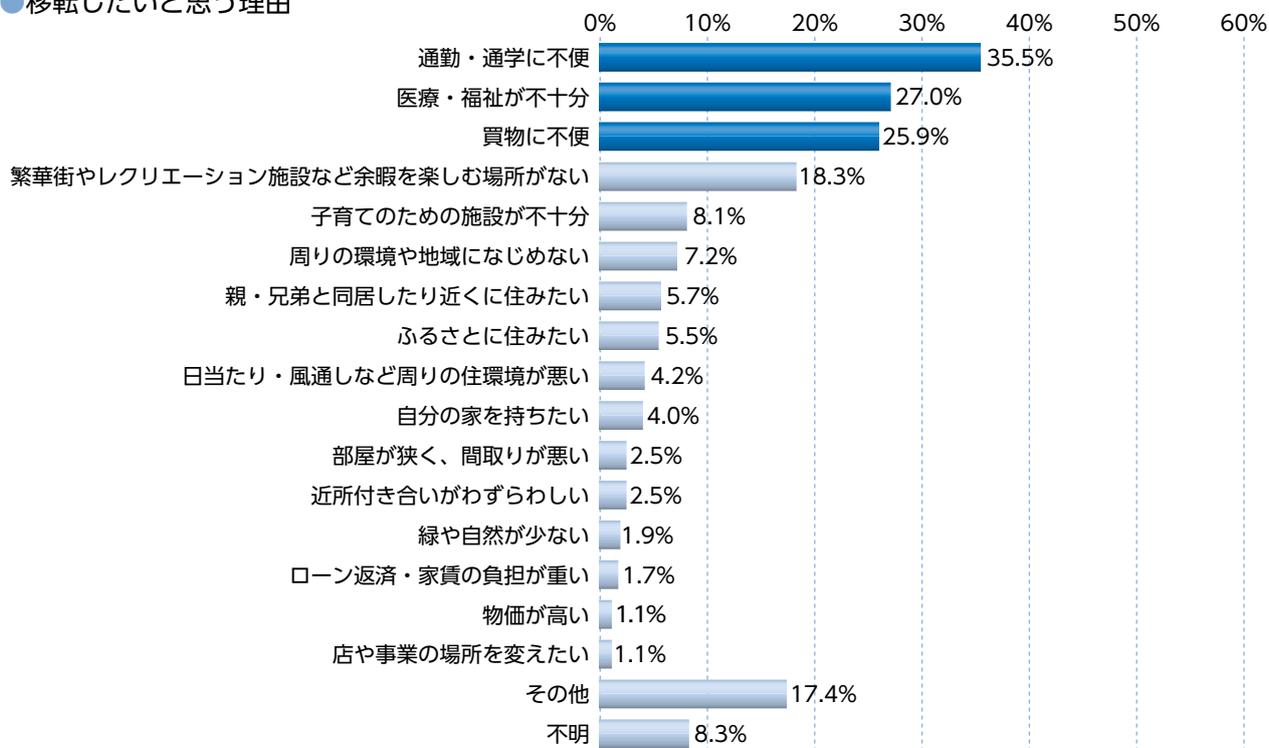
市民意識調査結果（平成21年3月）から抜粋

● 住み続けたいと思う理由



市民意識調査結果（平成 21 年 3 月）から抜粋

● 移転したいと思う理由



市民意識調査結果（平成 21 年 3 月）から抜粋

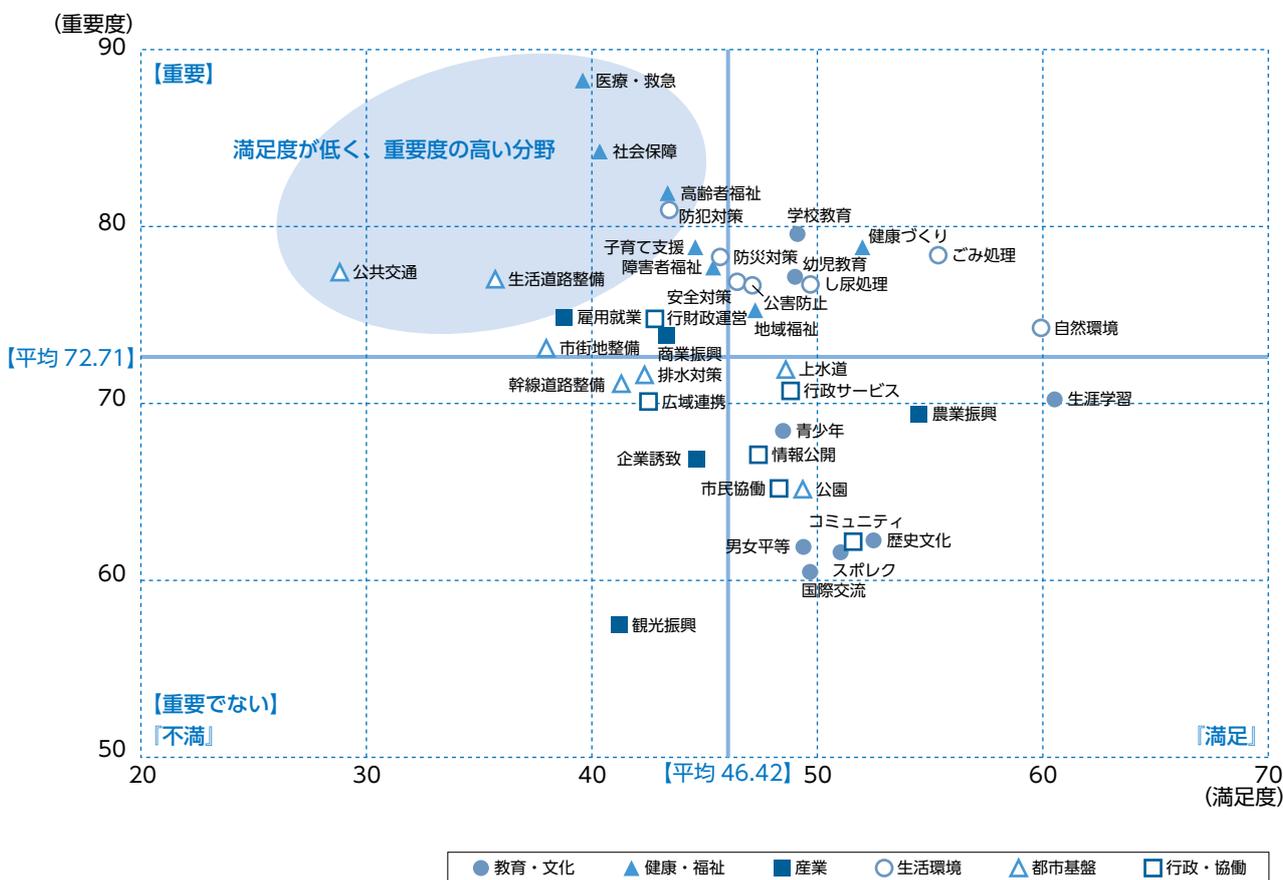
■市民サービスに対する満足度と期待度

現状の市民サービスについては、「自然環境の保全・育成」、「ごみ処理・リサイクル」、「生涯学習施設」への満足度が比較的高くなっています。

今後期待する施策については、「医療・救急体制」、「高齢者の生きがい・介護」、「保険・年金」、「検診・健康づくり活動」、「防犯対策」、「ごみ処理・リサイクル」、「公害防止」、「身近な生活道路」、「バスなど公共交通機関」への期待度が比較的高くなっています。

「医療救急」、「社会保障」、「高齢者福祉」、「防犯対策」、「公共交通」、「生活道路整備」、「雇用対策」については、現状での満足度が低く、かつ今後の期待度が高くなっており、今後のまちづくりにおいて、満足度を高める取り組みを進めていく必要があります。

●市民サービスに対する満足度と重要度の分布



市民意識調査結果 (平成 21 年 3 月) から抜粋

(2) 富里市の誇りと市の発展方向について

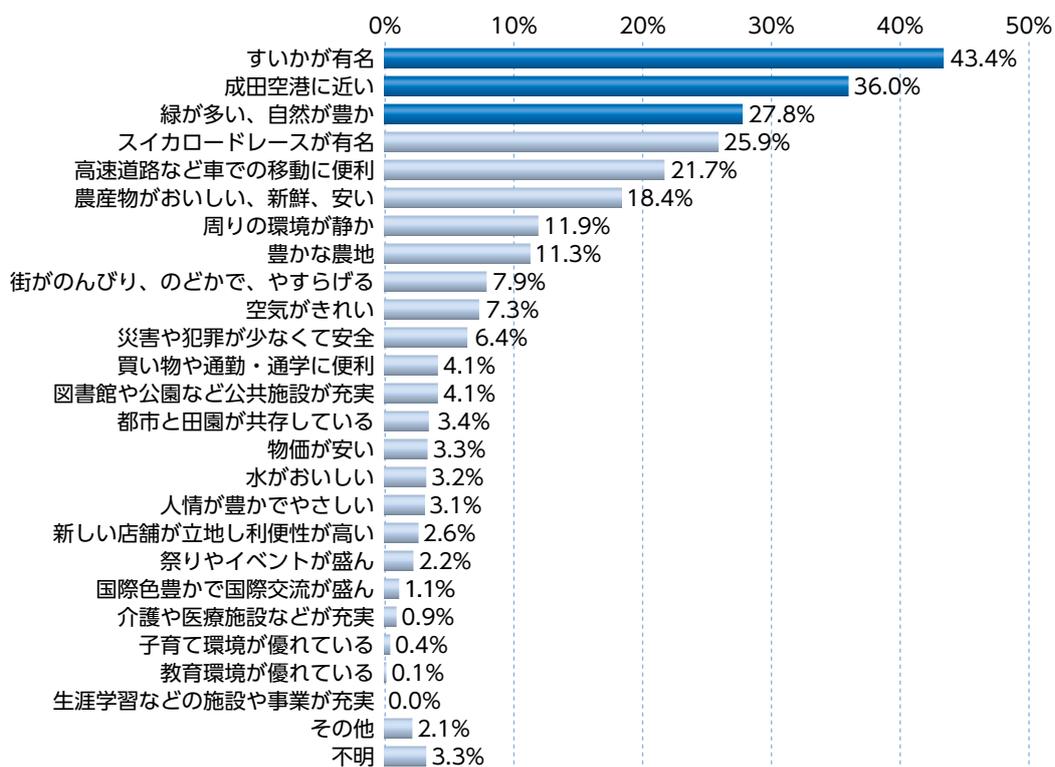
■富里市の誇り、将来イメージ

本市で誇れるものとしては、「すいかが有名」、「成田空港に近い」、「緑が多い、自然が豊か」が多くなっています。

本市の将来イメージとしては、「緑豊かな」、「のんびりした」、「素朴な」が上位となっています。

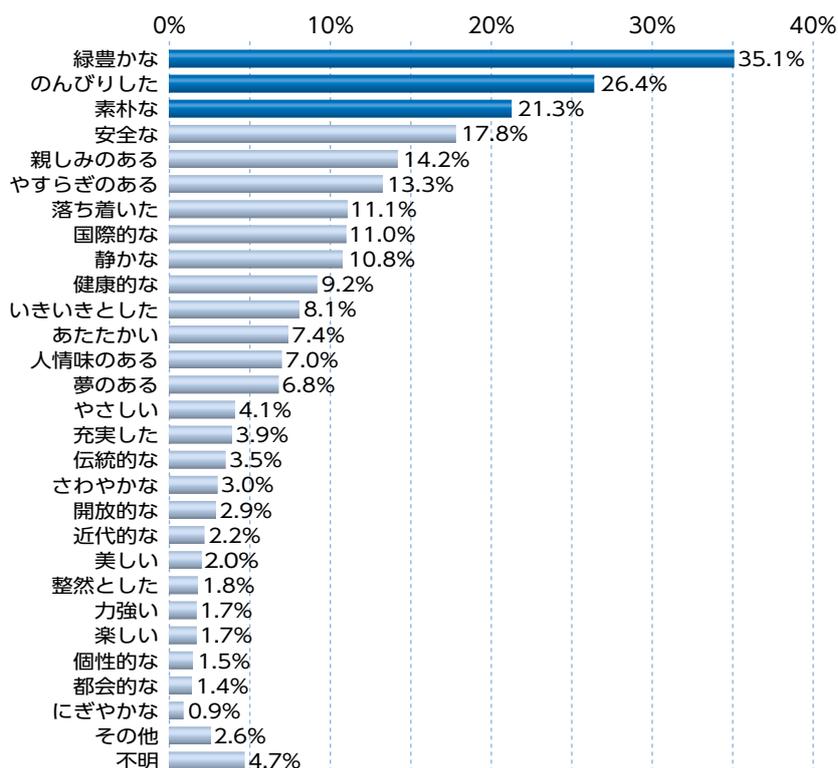
本市への愛着を高め、他の市町村にはない独自のまちづくりを進めるために、上記の資源や将来イメージを活かしたまちづくりを進めることが求められます。

●市で誇れるもの



市民意識調査結果（平成21年3月）から抜粋

●市の将来イメージ



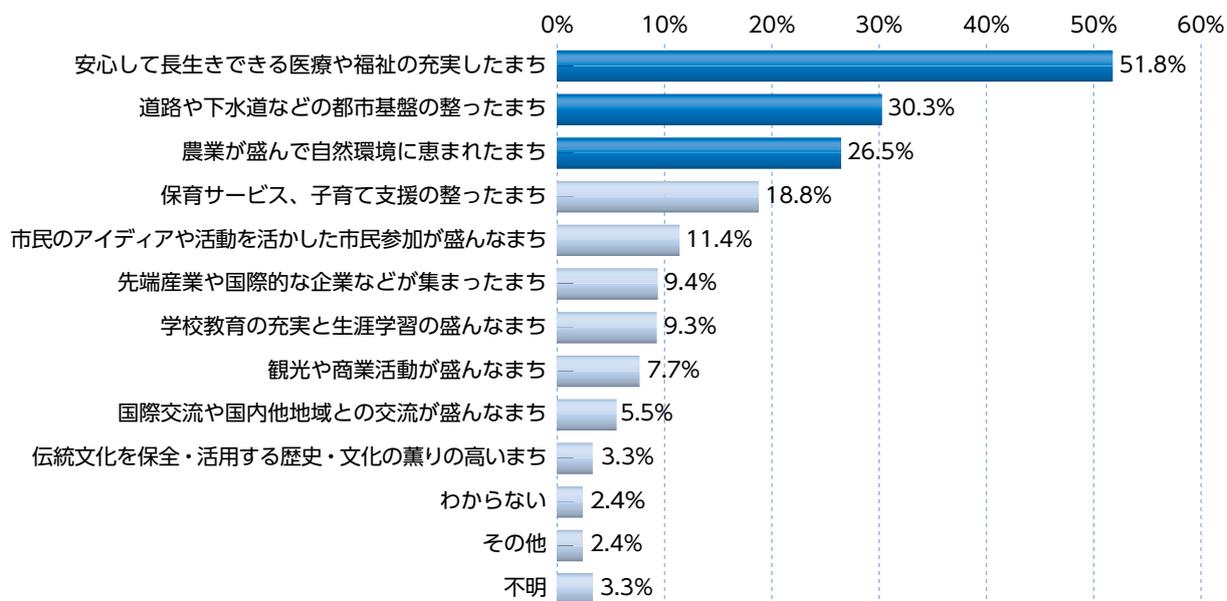
市民意識調査結果（平成21年3月）から抜粋

■富里市の発展方向について

望ましい市の発展方向は、「安心して長生きできる医療や福祉の充実したまち」が最も多く、次いで「道路や下水道などの都市基盤の整ったまち」、「農業が盛んで自然環境に恵まれたまち」が多くなっています。

今後の市の発展方向としては、医療福祉の充実や都市基盤の整備を拡充するとともに、農業の振興や自然環境の保全を進めていくことが求められています。

●市の発展方向について



市民意識調査結果（平成21年3月）から抜粋

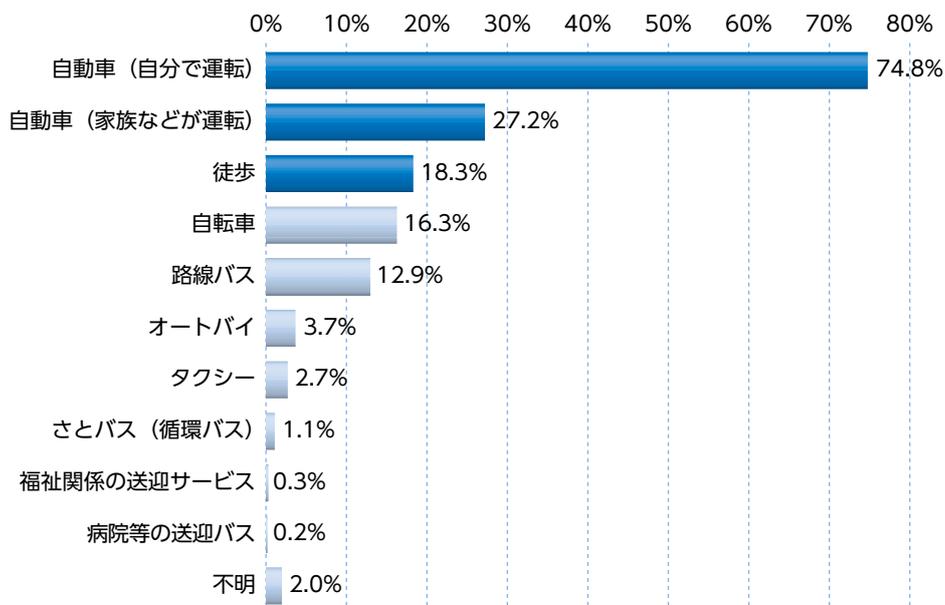
(3) 地域での生活と協働のまちづくりについて

■生活圏と移動手段について

市民の生活圏は、日用品等の買物は市内中心、衣料・家電等の買物や娯楽は成田市中心、病院やスポーツ・習い事は市内・成田市でという傾向となっています。

市内での移動手段は、「自動車(自分で運転)」が74.8%と突出しています。さとバスについては、現在は主な移動手段としている市民は少数ですが、「高齢期がきたら利用する」という意向が多くなっており、今後の需要拡大に対応したサービス拡充が求められています。

●移動手段について



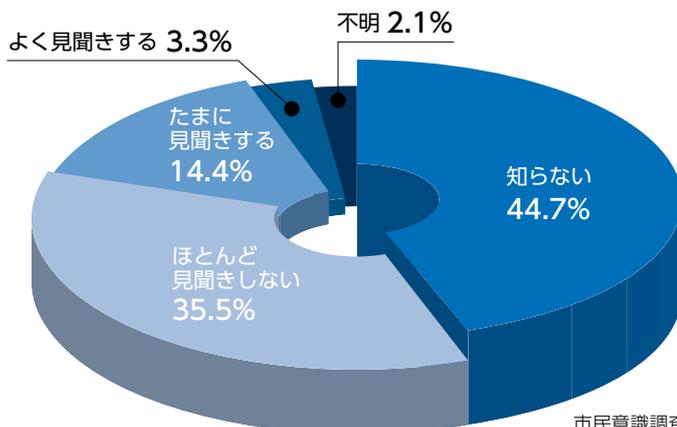
市民意識調査結果(平成21年3月)から抜粋

■協働のまちづくりについて

市民ニーズにきめ細かく対応するまちづくりのためには、市民と市による協働の仕組みづくりが必要です。

現状では「協働」を知らない、ほとんど見聞きしない人が80%を超えており、協働のまちづくりの実現のためには、行政方針等の情報公開や市民参加の推進、まちづくりを行う市民等への支援が求められています。

●「市民協働」や「協働」という言葉を聞いたことがある



市民意識調査結果(平成21年3月)から抜粋

第2節

時代の潮流

今後のまちづくりにおいて、考慮すべき時代の潮流は以下のとおりです。

(1) 市民ニーズの多様化

核家族化、未婚晩婚化、共稼ぎ世帯の増加等、さまざまなライフスタイルへの支援、雇用形態や価値観等の多様化に対応したサービス提供が求められています。

近年では特に、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない要因となっており、仕事と生活の調和の実現のための取り組みが期待されています。

また、市民が安全で安心して暮らせる環境づくりのための総合的な取り組みも求められています。

(2) 人口構造の変化

首都圏においては、平成20年代半ばを境に人口が減少に転じることが予測されています。

人口減少社会は、人口規模の縮小だけでなく、高齢者の増加と生産年齢人口¹⁾の減少という人口構造の変化を伴い、労働力の減少や社会保障費の増大といった影響が懸念されています。

また、我が国の合計特殊出生率²⁾は、近年やや持ち直しの傾向にありますが、少子化の傾向は今後も継続するものと考えられます。

(3) 社会経済情勢の変化

近年の日本経済は、世界的な金融危機や景気悪化に陥ったものの、近年、持ち直しの動きが見られ、その後も続いています。

また、依然として雇用情勢に厳しさが残るものの、企業収益の改善が続くなかで、海外経済の改善や緊急経済対策をはじめとする政策の効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待されています。

(4) 地球環境問題への意識の高まり

今日の環境問題は、生活型公害だけでなく、温室効果ガスによる地球温暖化問題まで多岐にわたっています。なかでも、地球温暖化の問題は重要課題の一つとなっているため、国のみならず多くの地方公共団体で、温室効果ガスの排出抑制や限られた資源を有効活用する循環型社会³⁾の転換に向けた取り組みが行われています。

(5) 地方分権の進展

地方分権改革推進法に基づき、国と地方の役割分担や国の関与のあり方について見直しを行い、これに応じた税源配分等の財政上の措置の在り方について検討を進めることで、地方公共団体の行政体制の整備及び確立を図ることが求められています。

1) 生産年齢人口：年齢別人口のうち労働力の中核をなす15歳以上65歳未満の人口層を示す。

2) 合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、一人の女性が一生の間に産む子どもの平均数を表す。

3) 循環型社会：自然の物質循環を損なわないよう、生産、消費、廃棄等社会経済活動の全般を通じて、資源やエネルギーの一層の効率化を進めたり不要物の発生を抑制したりするなど、大気、水、土壌等環境への負荷を極力軽減しようとする仕組みをもつ社会のことをいう。

第3節

本市の地域特性

本市は、明治22年に「富里村」として誕生し、首都圏近郊の農業地域として着実な発展を遂げてきました。昭和53年に成田国際空港が開港すると、空港関連の就業者の住宅地として、また空港周辺の産業地として急速に発展し、平成14年に「富里市」となりました。

このような発展の経緯を踏まえ、今後のまちづくりの個性となる、本市の地域特性は以下のとおりです。

(1) 成田国際空港隣接地

本市は、昭和53年の成田国際空港開港以降、空港関連の就業者や事業所が進出したことにより発展を遂げてきました。近年その傾向は緩やかになりつつありますが、今後、航空機の発着回数は増加する見込みであり、新たな市への波及効果が期待されます。

(2) 首都圏近郊の農業地域

本市の主力産業は農業であり、中でもすいかの生産量は、全国有数を誇っています。平成18年の農業産出額¹⁾は111億5千万円で、県内10位となっています。

本市は豊かな農業地域であります。近年農家戸数、農業従事者数の減少傾向が強まっています。しかし、新たな農業後継者も多く就農している傾向にあります。

(3) 多様な就業者が居住する住宅地

本市には、農業や空港関連産業、東京・千葉市等の企業への就業者など、多様な知識や技術を持った市民が居住しており、これらの豊富で多彩な知恵や経験を活かした、新たなまちづくりの担い手としての活躍も期待されます。



1) 農業産出額：農業により生産された農産物や加工農産物を金額として表したものの。(品目別生産量に品目別農家庭先販売価格を乗じて算出されたもの)

計画策定にあたって、考慮すべき人口・世帯数、就業者数の傾向は以下のとおりです。

(1)人口・世帯数

平成17年における本市の人口は51,370人で、世帯数は18,652世帯です。本市は、空港開港以降、着実に人口増加を続けていますが、近年、その傾向は緩やかになりつつあります。

●人口・世帯数の推移



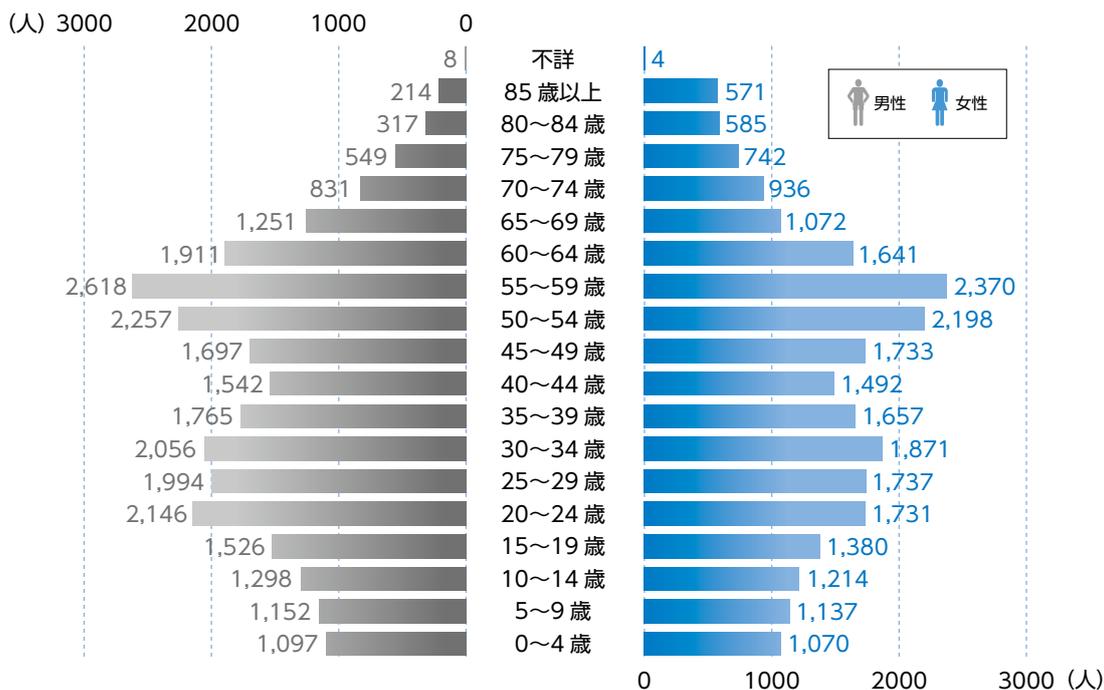
資料：国勢調査

(2) 年齢階層別人口

本市の老年人口(65歳以上)の割合は、平成17年13.8%で、県平均(17.5%)、全国平均(20.1%)より低く、高齢化は緩やかに推移しています。しかし富里市の年齢構成は、団塊の世代のピークと成田国際空港開港後の就業者受入れのピークが重なっており、急速な高齢化がより顕著に現れることが見込まれます。

また、年少人口(0~14歳)の割合は、平成17年13.6%で、県平均(13.5%)、全国平均(13.7%)とほぼ同様で、少子化の傾向にあります。

●平成17年時人口構造



資料：国勢調査

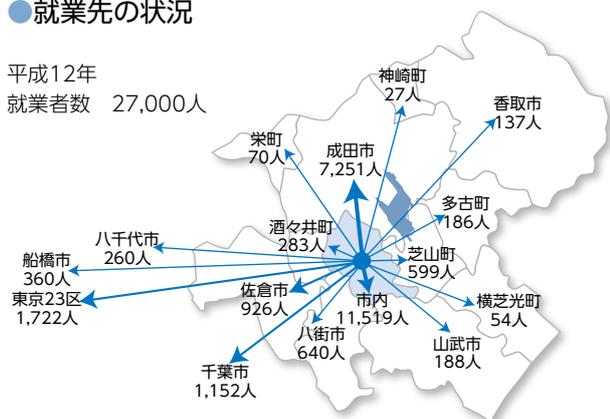
(3) 就業者数

平成17年における本市に居住する就業者数は27,571人で、人口と同様に増加傾向は緩やかになりつつあります。

就業者の就業先の傾向は、市内で働く就業者は減少傾向にあり、成田市、芝山町等市外で働く就業者が増加する傾向にあります。また、東京方面で働く就業者は減少傾向にあります。

●就業先の状況

平成12年
就業者数 27,000人



平成17年
就業者数 27,571人

